

夢追い人

二十のブランド立ち上げを目標

失敗しても、次に成功すればいい

関家具(株)

代表取締役社長 関 文彦さん



左からベガスビル本社、クラッシュ・クラッシュショールーム

今回は、大川で最も元気な企業の一つ、(株)関家具にスポットをあてる。ダンディなた

たずまいと笑顔で迎えてくださった社長、関さんにお話をお聞きました。

(株)関家具は、商品企画、生産、販売、卸、小売りまで行う。昨年の家具卸商売上高で全国四〇〇社中第五位。創業四十年間赤字なしの優良企業である。売上高は約八十一億円。家具販売が低迷する中、今期十%の売り上げアップを挙げている。会社の特色は、若さがあること。会社全体で平均は実に二十八歳、幹部職員の平均三十七歳。たとえば、専務三十四歳、常務四十四歳、営業本部長三十三歳...という具合である。今年新たに大卒八名、

高卒十一名の従業員が加わっている。従業員総数は約一四〇名である。

創業当時の様子を関さんに聞いてみた。「学生時代に貯めたお金でトラック一台購入し、起業しました」。当時は資金もノウハウもなかったそうだ。でもこだわった指針があった。なんだろうか?それは現金取引。「朝メーカーから仕入れて、日中に販売店に現金で販売し、夜にメーカーに現金で支払うやり方でした。手形取引が大勢を占める中、現金だから、販売店もメーカーも取引してくれたんですね。」こうして徐々に発展を遂げてきた。

現在の企業スタンスは、お客様満足、働く社員の満足を実現しながら、生まれ育った産地大川への貢献を果たすこと。

その目的意識を持って関さんは、二十のブランド立ち上げを目標している」と言われる。一ブランドで五億から十億円、二十ブランド全体で一〇〇億円の売り上げを目指している。そしてブランドごとの事業部





リラックスフォーム

クラッシュ・クラッシュプロジェクトのショールーム
旧伝習館高校の校舎の部材を一部使用している

市外のお客様が見学できる家具の博物館がありません。それで、そういう施設を造りたいと思っています。日本一の家具産地大川のシンボルになればと願っています。三〇〇〇㎡ぐらいのスペース。もちろん売り場もあります。」完成すれば大変興味深い施設になる。

関さんはボランティアにも熱心だ。古賀記念館や大川市内の幼稚園、保育園にサクラの苗木を寄付している。「今後一万本を提供する予定です。」といわれる。また最近では、風浪宮の灯籠施設に資金面で協力。

また福岡県の「子育て支援宣言企業」に三十八番目に登録。社員の子育て、PTA活動などの参加を積極的に支援している。また社員の消防団活動も公休扱いにしている。消防団員として過去に常務が十年間。そして現在三名の社員が活動中。

さて、インタビュ어의終わり頃、社長室にメソポタミアの文字、くさび形文字が刻まれた土器が飾ってあった。そこで趣味を聞いてみた。「海外の文化や人々に触れること」だそうだ。シルクロードの会員で、周辺の三十七カ国を訪問してきた。シリア、イラク、パキスタン、ネパール、インドス川流域などなど。

また福岡県の「子育て支援宣言企業」に三十八番目に登録。社員の子育て、PTA活動などの参加を積極的に支援している。また社員の消防団活動も公休扱いにしている。消防団員として過去に常務が十年間。そして現在三名の社員が活動中。

飾られていた土器はイラクで発掘されたものだそうだ。またブラジルと友好・交流を図る「アマゾンの会」にもはいつている。そこで、こういう質問をぶつけてみた。「今まで一番印象深かった地域はどこですか？」しばし考えた後、こう言われた。「モーセが十戒を授かったときされるシナイ山、そして死海、キリストが処刑されたエルサレム、ユダヤ教徒の聖地、嘆きの壁ですね。荘厳な雰囲気にとっても感動しましたね。」これには同じ商人として「地上最強の商人」と言われるユダヤ人に対する尊敬の気持ちもあるようだ。

ダイナミックな事業展開とボランティア、そして海外の文化に触れること。関さんの一生懸命さと気概が伝わるインタビューであった。



センベラベッド